

# 概説

## RED DATA BOOK

# クモ類

## 1. 島根県のクモ類相

本県でこれまでに生息が確認されているクモ類（クモ目）は、43科301種である。これらには古蛛亜目（ハラフシグモ亜目）は含まれていない。従って原蛛亜目（トタデグモ亜目）に属する1科1種を除く42科300種は、すべて新蛛亜目（クモ亜目）に属するクモ類である。種数の多い科は、ヒメグモ科（50種、全体の16.6%）、コガネグモ科（47種、15.6%）、ハエトリグモ科（30種、10.0%）、サラグモ科（29種、9.6%）、コモリグモ科（16種、5.3%）、フクログモ（8種、2.7%）などであり、6科で全体の59.8%を占めている。それら以外の36科は全体の41.2%に過ぎない。

本県のクモ類相の調査は、まだまだ不十分である。従来調査は島根県東部に偏っており、東西に長い島根県の中中部、西部の調査はあまりなされていないのが実情である。

隣接する鳥取県での報告は400種を超しており、近隣の岡山県では約560種の生息が確認されている。

島根県は東西に長く、日本海沿岸から標高1,200mの中国山地まで、自然環境豊かな、森林、草原、農耕地が存在し、加えて隠岐諸島がある。調査が進めば新しい知見が多く得られるはずである。

ここで隠岐諸島のクモ類について簡単にふれておく。隠岐諸島でこれまでに生息が確認されているクモ類は、

28科182種である。この内東洋区に生息の主体を持つ南方系種が12種、北方系のクモが10種それぞれ混在している。さらに世界共通種が6種、朝鮮半島、中国と共通に生息する種が104種、日本固有種が34種となっている。

隠岐諸島は暖流と寒流の相克点にあたり、島根県の本土で中国山地でしか見られないタカユヒメグモが海岸で生息するなど少し変わった様子が見られる。

隠岐諸島のクモ類も早急な調査が望まれる。

## 2. 選定種の概要

本県の絶滅危惧種として、イソコモリグモの1種を、準絶滅危惧種としてキノボリトタテグモ、ワスレナグモ、キジロオヒキグモの3種を選定した。

絶滅危惧Ⅱ類のイソコモリグモは、近年県内の海岸に生息する事が判明し、その結果この種の南限は島根県となった。

キノボリトタテグモ、ワスレナグモは環境省レッドリストの準絶滅危惧にも選定されている。キジロオヒキグモは、東洋区に生息の主体をもつ南方系のクモで南西諸島には沢山生息するが県内では1980年に益田地区でメスの成体1頭の生息が確認されただけである。島根県では準絶滅危惧種として選定した。

（景山純孝）